

も、アバラッポネが2~3本足りないのではなからうか？。

小生の持ち時間は、後17~18年位。残された持ち時間内にどれだけ事が出来るやら。春蘭の花を後17~18回咲かせると、ぎょめいぎょじ、でお隠れ遊ばさなければならぬのかと考えると、情けなくなるが、これも致し方ない。最後に枕頭に侍るであろう倅に”ああ面白かった有難う”と眼を閉じたい、と考えているのだが、どうなる事やわからない。終

(2005. 7. 12. 新潟市曾野木2-13-9)

尾崎富衛先生からの年賀状

高橋 務

- 1994年、「ツエルマツ、ゴルナグラードよりマッターホルンを望む：ご夫婦」
- 1995年、「東蒲原郡鹿瀬町万治峠にて：ご夫婦」
- 1996年、「オタワ近郊ガテノーパーク：ご夫婦」
- 1997年、官製はがき
- 1998年、「カルガルーポー、西オーストラリア、バース北部」「ご夫婦」
- 1999年、「トゲミマツ（プリスリー・コーン・パイン）カリフォルニア・シェラネバダ：ご夫婦」
- 2000年、「トゲミマツ（プリスリー・コーン・パイン）カリフォルニア・シェラネバダ：ご夫婦」
- 2001年、「湯の平温泉の帰り道：ご夫婦」
- 2002年、「欧州西端ポルトガル山中にて、シャクヤク自生：ご夫婦」
- 2003年、「マダカスガル（ウオーターヒヤシンス）」「ご夫婦」
- 2004年、「モーツアルト生誕地の教会前で：ご夫婦」

私が尾崎先生と知り合うようになったのは、1979年に新潟県生物教育研究会の事務局で庶務を担当することになり、事業幹事の尾崎先生と、会運営の打ち合わせをもつようになってからである。

その後、尾崎先生が、新潟市から依頼された佐潟の植生調査（1985）、鳥屋野潟植物調査（1987）に声かけていただき、野外調査に参加した。

1988年には、先生は、新潟県生物教育研究会加茂大会で、「シクラメンの自生地を尋ねて」というテーマで、スライドで地中海ロードス島の植物を紹介されたが、よく知られた園芸植物の原産地での自生の姿は興味深かったし、先生の植物を尋ねる旅が世界に広がっていることに驚いたものだった。

その後しばらく、お付き合いは遠のいていたが、たまたま、近くに存在する知人が、アルプスの花を尋ねる旅で、尾崎先生と一緒にあったといい、後日、アルプスの花の写真が

まとまったので、尾崎先生宅で見るので一緒に行かないかと誘われて、ご自宅を訪れた。

アルプスの花の写真は、素晴らしかった。そして、旅の記念写真と旅行記（ほんのちらりと見せていただいただけ）は、奥様に任せておくのだとおっしゃったが、ご夫婦で花を尋ねるということと共有して、辺境の地を訪ね歩いていることに感動し、羨ましく思った。そこで、ついつい、私も海外の花を見にいきたく、はかない希みを口にしたら、機会あれば一緒にいきましょうといわれ、植物を尋ねるのにいい旅行社を紹介された。

以来、毎年、世界に花を尋ね歩いた年賀状を頂いた。そして、私の海外に花を見に行きたいという希みは膨らんでいったが、一步を踏み出さないでいるうちに、いたずらに、時間が過ぎてしまい、先生は、冥界の花を尋ねて旅立たれてしまわれた。

尾崎先生からの花を尋ねての年賀状が届くことはなくなった。

「尾崎先生は父の同級生」

戸田 明

「尾崎先生と初めてお会いしたのは、大学四年春の与板だろうか？じねんじょ会加入はそれから四年後、当時は石沢先生に誘われ、タネツケバナ属があるからと参加しただけで、じねんじょ会メンバーも怖い人々の印象。その後も総会を除けば、採集会で尾崎先生とお会いすることは少なかつたと思いますが、20年ほど前か、父に山の話をしていたら、『尾崎は新潟中学の同級生だ』と。何かの折りに、尾崎先生にそう告げると、それからは乏しい機会ながらそれまで以上に優しく接していただき、勝手に『じねんじょ会での父』と思っていました。退職前に病床に伏し、その後は山歩きどころじゃなかった私の父は、よく『同級生の中でも尾崎が一番幸せだったなあ』などと言ってました。その父も尾崎先生よりほんの少し長生きしていましたが、つい先日亡くなりました。」

尾崎先生を偲ぶ

奈良場 正一

先生がお亡くなりになって、早くも1年余の月日が過ぎました。じねんじょの例会で最後にお会いしたのは、2003年大杉公園のお楽しみ会だったかと思います。

ちょうど当番を渡辺茂さんと二人でさせていただきましたが、新潟からの日帰りは無理とのお話で、渡辺さんがアクーレ長岡に宿を手配され、泊まりがけで奥様と二人で

参加していただきました。

また当日は石沢先生が、3月1日大阪で行われた第11回松下幸之助花の万博記念賞奨励賞を受賞され、記念盾の披露があるなど、記憶に残るお楽しみ会でした。

あと思い出の山行は、みんなを勇気づけていただいた、1999年の杣差岳強化合宿（76才？登頂じねんじょ記録）や、津南町巨木調査などです。

杣差岳山頂での別れは今でも脳裏に残ります。小屋にもう一泊のため、高圧さんと二人で残られ、下る本隊一行をいつまでも手を振って見送っていただいたのですが、小生も二度と来ないであろうこの山を去りがたく、何度も振り返りましたが、先生は下る皆さんにずっと手を振っていらっしやいました。

津南町調査は何回かありましたが、先生は1992年頃は最後の資料まとめに精をだしてられ、巨木については、情報があれば何回でも補充調査をされ、じねんじょ調査隊解散後も調査されたことがありました。そんな折ちょうど退職して自由な身となっていたので、二日間同行する機会がありました。初日は津南町の中沢英正氏の案内で廻り、二日目は二人だけになりました。

小生の資料整理がいいかげんなので、今ではどこを調査したのか記憶が定かではありませんが、穴藤のメグスリノキは、急な登りを上ったこと、あまりきついで次回来るときは上部から下がる道はないか見に行ったこと、後で分かったことだが、二人とも紅葉の写真を撮りにそれぞれ別の日に行き、先生は上から下りたと云われたし、小生は下から登ったことなどあった。

またチョウセンゴヨウの大きな木が、駒返の民家の庭にあるとの情報で、訪ねたが見あたらないと思ったら枯れて伐採されてしまっていたなど、情報は必ず確認するという調査に対する執念やその姿勢に感心させられたものでした。

巨木調査の方法なども教えていただき、そのとき頂いた正接三角関数表は、1994年～1996年の旧三島町巨木調査に活用させていただきました。

調査内容の記憶はあまりないのに、泊まった夜のことは印象に残っています。先生の車は、ベット、山道具、食料庫のあるフル装備車だし、小生は軽トラック幌付きでしたのでどこでもすぐ野営できるので、適当の場所を探しながらどんどん山奥へ入ったが、熊が出そうで気持ちが悪くなり、人家の見えるところまで下りて炊飯しました。

ご飯とみそ汁だけ作り、あとは先生が食料庫からワインや缶詰を持ってこれ、ゆっくりした夜を過ごしました。

先生は酒はあまりお強くないので、小生がおおかた飲んだのではないかとされます。

つまみが無くなると、車の中を探して「こんなものがあった」と戻られる、ちょっと前かがみ姿勢の笑顔が目に残ります。

先生の車は「ドラえもん」のポケットのようだと感心しました。ながい山経験のいろんな知恵とアイデアが詰まった装備だと思いました。

いろんな話をしたなかで、牧野富太郎さんのことになり、小生が就職試験の二次面接時に尊敬する人とは聞かれ、1年前の1951年に文化功労者受賞者で話題となっていた牧野さんをあげたこと、東京谷中の墓地へ牧野博士ご夫妻の墓参に行ったことなどはなし、また先生は出征のとき、日の丸の寄せ書きのなかに牧野富太郎さんから書いてもらったのがあったと云われ、「すごい、一目見たい」と、先生にお宝拝見をお願いをしたようで、あとで先生から「どうも処分してしまったらしく、見つからない」と聞き、写真に撮れず残念に思ったことなど懐かしく思い出されます。

先生の写真の腕はプロ並みで、県展写真の部で何回か拝見したことがあり、なかでも海外旅行で撮影された砂漠植物の「奇想天外」には驚き、よく記憶しています。

すばらしい写真、ハーモニカ、みんな懐かしい。

いろいろ親切に教えて下さったり、たくさん思い出も有り難うございました。

尾崎富衛先生ありがとうございました

西山邦夫

尾崎先生に初めてお目にかかったのは生物教育研究会の発会を兼ねた自然観察会の時でした。まだ雪のわずかに残る昭和30年代の春、東蒲原郡の三川村でありました。当時、三川温泉の山奥には新潟大学農学部の演習林があり、国鉄磐越西線の三川駅からその事務所までの田んぼ道や曲がりくねった山道が観察経路でした。池上義信先生、平田幸治先生、丸山幸平先生、吉川純幹先生、松田一郎先生、小林敬先生や村上市の工藤先生など著名な先生方が参加されておりました。観察ポイントでは、その分野を専門とする先生が説明に当たり、岩石、植物群落、スゲ類など沢山のお話を頂きました。

尾崎先生にはその後、じねんじょ会を通じ御指導を頂いて来ました。環境庁や県庁の依頼による植物調査では県内のあっちの山、こっちの湿原などいろんな所にでかけました。先生は御用意の良い方で、愛車にはいざという時の準備が常にしており、食料、水、テント、懐中電灯など即座に提供して下さいました。私が長岡市立科学博物館に学芸員として勤務していたおりは、野外観察会、講演会や標本写真展示会など多くの博物館行事で講師として御指導を頂きました。ここに掲載した写真は「親子の夏の植物観察会」の時のものです。夏休みの自由研究のテーマの設定、観察の仕方、まとめ方、標本の作り方などを学習するもの